

日系外国人雇い止め 3000人

シャープ亀山 労働者加入の労組公表

シャープ亀山工場(三重県)で働いていた多くの日系外国人が雇い止めされていた問題で、労働者の一部が加入する労働組合「ユニオンみえ」は3日、東京都内で記者会見し、雇い止めは3千人弱とみられると明らかにした。

外国人労働者の受け入れ拡大を目指す政府は、人手不足を訴える企業側の意向を理由に挙げている。しか



シャープの亀山工場で外国人労働者が大量に雇い止めされた問題で、記者会見するスズキ・ファビオラさん(右から2人目)ら。3日午後、厚生労働省

し、3千人もの雇い止め判明で、国会審議が続く入管難民法改正案への懸念は一層強まりそうだ。ユニオンみえの広岡法浄書記長らは「日系人でも不利益な立場で働かされている。法改正で受け入れる外国人も人権を奪われるのは明らか」と危機感を訴えた。

ユニオンみえによると、技能実習生とは異なる在留資格を持ち、亀山工場で働く日系ブラジル人、ペルー人、ボリビア人などの外国人は、シャープの3次下請けに当たる県内の会社グループに雇われていた。会社側は11月に労組と団体交渉した際「3千人から1000人まで減った」と説明した。会見には7〜9月に雇い止めされた男女4人が出席。いずれも「給料がいい」などと言われて働き始めたが、約9カ月〜3年で雇い止めされた。作業中にけがをしても、労災の対応をすぐしてもらえなかったという。

ペルー人のスズキ・ファビオラさん(38)は「安定した仕事と信じて働いたのに、すぐに雇い止めされた。人生で最悪の経験だった」と訴えた。

下請け会社グループは亀山工場の受注増加に合わせ、昨年ごろから多くの外国人を雇い入れたが、減産のため雇い止めをした。う

ち1社は11月の共同通信の取材に今年に入り、雇い止めは約千人と答えていた。